

第 129 回 学長定例記者会見

日時：令和3年1月29日（金）10：30～11：00

場所：広島大学 霞キャンパス 広仁会館1階 中会議室

※ テレビ会議システムによる配信は行わない

※ YouTube による録画配信を実施

【発表事項】

1. 大学院医系科学研究科の新福洋子教授が 100 Outstanding Women Nurse and Midwife Leaders（世界の卓越した女性の看護師・助産師のリーダー100人）に選出されました
2. 医学部創立 75 周年記念式典を開催します（2/27）
3. 広島大学 ネーミングライツ事業を推進
～ 2事業者とネーミングライツ契約を締結 ～
4. 2050 年の未来を拓くゲームチェンジ！！
「ムーンショット型研究開発事業 新たな目標検討のためのビジョン策定（ミレニア・プログラム）」に採択されました

■次回の学長定例記者会見（予定）

日時： 令和3年2月下旬

場所： 広島大学 東広島キャンパス

令和 3 年 1 月 29 日

大学院医系科学研究科の新福 洋子教授が
100 Outstanding Women Nurse and Midwife Leaders
(世界の卓越した女性の看護師・助産師のリーダー 100 人)
に選出されました

世界保健機関（WHO）は 2020 年を「看護・助産の年」と位置づけ、世界中で Nursing Now キャンペーンを実施しました。それらのイベントの一環として 12 月下旬に『世界の卓越した女性の看護師・助産師のリーダー 100 人』が WHO、国連人口基金（UNFPA）、国際助産師連盟（ICM）、Nursing Now の選考委員によって選出され、その 1 人に新福 洋子教授（広島大学大学院医系科学研究科国際保健看護学、助産師）が選ばれました。ケアリングの理論で知られるジーン・ワトソン氏（コロラド大学名誉教授）なども名を連ねる世界的なリーダー 100 名の中に、日本からも 1 人、助産師の若いリーダーが選ばれました。

受賞ページには、新福教授がタンザニアで初の助産学修士課程の創設に貢献したこと、最近ではタンザニアの助産師のためのスマートフォンアプリを開発し WHO ガイドラインに基づく助産ケアを推進していること、国際的な若手科学者団体 Global Young Academy の執行役員として国際会議での登壇や政策提言を通し、若手研究者が活躍する基盤づくりに国内外で広く貢献していることなどが紹介されています。

【お問い合わせ先】

大学院医系科学研究科
教授 新福 洋子
TEL：082-257-5345
E-mail：yokoshim@hiroshima-u.ac.jp

令和 3 年 1 月 29 日

医学部創立 75 周年記念式典を開催します (2/27)

広島大学医学部の前身である広島県立医学専門学校は、原爆投下前日の 1945 年 8 月 5 日に開校しました。48 年、県立医科大学となり、広島医科大学を経て 53 年、国立に移管され広島大学医学部として再出発しました。

この度医学部創立 75 周年に当たり、記念式典を下記のとおり開催しますので、お知らせいたします。

記

1. 日 時：令和 3 年 2 月 27 日 (土) 13 時 30 分～16 時
2. 場 所：広仁会館 大会議室 (霞キャンパス内：広島市南区霞 1-2-3)
3. 医学部創立 75 周年記念事業

記念講演 13 時 30 分～

- 「ヒト肝細胞キメラマウスを用いた肝炎ウイルスの研究」

広島大学大学院医系科学研究科 教授 Distinguished Professor
茶山 一彰 氏

- 「消化管癌の癌幹細胞克服に向けて」

広島大学大学院医系科学研究科 教授 Distinguished Professor
安井 弥 氏

- 「免疫の多様性とがん免疫治療」

京都大学高等研究院副院長・特別教授、京都大学名誉教授、2018 年にノーベル生理学・医学賞を受賞。

本席 佑 氏

記念式典 15 時 35 分～

式辞 広島大学医学部長 栗井 和夫

挨拶 広島大学長 越智 光夫

来賓祝辞

祝電披露

閉会 広島大学医系科学研究科長 大段 秀樹



※講演会・式典は Zoom で配信予定。

参加申し込みは、次のフォームから。

<https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=3VQExGOyJkmGjY4SZA03UFACFYkZ8FREu9q0GOzPzYFUOUhRQTRWWIRVQkhXR0NJOUU3WTREM0VUMC4u>

【お問い合わせ先】

霞地区運営支援部総務グループ 一原

TEL：082-257-5606 FAX：082-257-5615

令和 3 年 1 月 29 日

広島大学 ネーミングライツ事業を推進

2 事業者とネーミングライツ契約を締結

広島大学は、株式会社ディスコ(以下「ディスコ」)およびマイクロンメモリジャパン合同会社(以下「マイクロン」)と大学施設のネーミングライツ(施設命名権)取得に関する「ネーミングライツ事業実施契約書」(以下「本契約」)を締結しました。

本学は、本学所有施設の有効活用による自己収入の拡大を図り、教育研究環境の向上を目的として、ネーミングライツ制度を令和 2 年 4 月 1 日に導入しました。

このたび、ネーミングライツ契約により命名権を付与する施設は、東広島キャンパスの工学部講義棟 B 2 104 講義室および理学部 E 102 講義室です。いずれも本学の選考委員会による審査を経て、命名権者に選ばれました。

なお、今回の 2 件の契約により、広島大学のネーミングライツ契約は、3 例となります。

<ネーミングライツの概要>

■東広島キャンパス 工学部講義棟 B 2 「104 講義室」

令和 3 年 2 月 1 日から令和 5 年 3 月 31 日まで、本施設は「KKM ROOM 104」となります。

1. 命名権者	(1) 法人名：株式会社ディスコ (2) 本社所在地：東京都大田区大森北 2-13-11 広島事業所・呉工場：広島県呉市広文化町 1-23 同・桑畑工場：広島県呉市郷原町 4010-1 (3) 代表者：関家 一馬
2. 対象施設	東広島キャンパス 工学部講義棟 B 2 「104 講義室」 延べ床面積：81 m ² 主な利用者：広島大学工学部、情報科学部の学生

3. 愛称名	〈アルファベット表記〉 KKM ROOM 104 〈日本語表記〉 ケイケイエム ルーム 104
4. 契約期間	令和3年2月1日～令和5年3月31日
5. 愛称の使用	施設内外にサイン等の掲示



本施設に設置されるサイン



104 講義室 室内



104 講義室 外観

命名権者となるディスコは、広島県呉市に2つの主要生産拠点を持つ半導体製造装置メーカーです。昨今では5G関連機器や電気自動車の普及、中長期的にはAI・IoT・自動運転・遠隔診療など未来技術の進展に欠かせない、半導体・電子部品製造向けの精密切断・研削・研磨装置において世界トップシェアを誇ります。また、能動的に仕事に取り組める社内制度や福利厚生を整えることで、厚生労働省による「働きやすく生産性の高い企業・職場表彰」にて最優秀賞を受賞するなど、従業員の「働きがい」向上にも注力する企業です。

施設名称に含まれる“KKM”とは、ディスコの事業領域である「高度なKiru（切る）・Kezuru（削る）・Migaku（磨く）」の頭文字を取ったものです。ローマ字表記には、ディスコの技術が国際的な標準となり、日本語でそのまま通用するようなレベルを目指すという強い思いが込められています。

本施設は、工学部や情報科学部の学生が利用する講義室です。本契約を機にディスコからは、本施設へのサポートをいただくと共に、本学とディスコは産学連携を強化します。

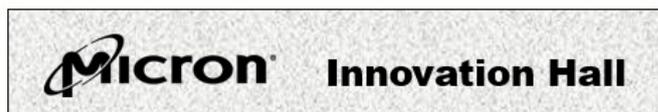
■対象施設：東広島キャンパス 理学部 「E102 講義室」

令和3年2月1日から令和4年3月31日まで、本施設は「Micron Innovation Hall」となります。

1. 命名権者	(1) 法人名： マイクロンメモリジャパン合同会社 (2) 本社所在地：東京都港区港南1-2-70 広島工場：広島県東広島市吉川工業団地7-10 (3) 代表者：福田 岳弘
2. 対象施設	東広島キャンパス 理学部 「E102 講義室」 延べ床面積：275 m ² 主な利用者：広島大学理学部の学生
3. 愛称名	〈アルファベット表記〉 Micron Innovation Hall 〈日本語表記〉 マイクロン イノベーションホール
4. 契約期間	令和3年2月1日～令和4年3月31日
5. 愛称の使用	施設内外にサイン等の掲示



E102 講義室 入口外観



本施設に設置されるサイン

命名権者となるマイクロンは、マイクロンテクノロジー社の日本法人です。日本最大の拠点である、マイクロン広島工場では、技術開発や 300mmDRAM の製造など、最先端メモリ製品の開発、設計及び生産を行っています。

マイクロンは、サステナビリティや地域コミュニティへの支援や慈善活動の推進にも尽力しています。



E 102 講義室 室内

マイクロンメモリジャパン合同会社について

マイクロンメモリジャパン合同会社は、米 Micron Technology 社の日本法人です。日本の拠点では、スマートフォンやその他のモバイルデバイスに不可欠な低消費電力 DRAM ポートフォリオの開発と立ち上げにおいて重要な役割を担っています。日本における最大の拠点であるマイクロン広島は、技術開発や 300mm DRAM の製造を担っています。橋本の拠点では DRAM の技術開発、研究開発、およびシステムインテグレーションを行っています。東京はカスタマーラボの本拠地であり、また当社の日本におけるオペレーションのサポート機能を担っています。

Micron Technology, Inc.について

マイクロンは革新的なメモリおよびストレージソリューションのリーディングカンパニーです。グローバル ブランドである Micron®および Crucial®と共に、DRAM、NAND、3D XPoint™メモリ、NORといった、高性能メモリとストレージテクノロジー分野におけるマイクロンの幅広い技術ポートフォリオは、すべての人々の生活を豊かにするために、世界の情報活用のあり方を変革します。40 年以上にわたり業界をリードするマイクロンのメモリとストレージソリューションの技術は、モバイル、データセンター、クライアント、コンシューマー、産業、グラフィック、車載、ネットワークなどの主要な市場分野における AI（人工知能）、5G、機械学習、自律走行車をはじめとする革新的トレンドの実現に寄与しています。マイクロンの普通株は、「MU」をティッカーシンボルとして NASDAQ で取引されています。Micron Technology, Inc.について詳しくは、www.micron.com をご覧ください。

【お問い合わせ先】

広島大学財務・総務室 広報部

広報グループ

TEL:082-424-6013 FAX:082-424-6040

株式会社ディスコ

広報室 広報チーム

TEL：03-4590-1090

<マイクロンメモリジャパン合同会社に関する問い合わせ>

広島大学 東広島地区運営支援部

理学系支援室

TEL：082-424-7305

令和 3 年 1 月 29 日

2050 年の未来を拓くゲームチェンジ！！
「ムーンショット型研究開発事業 新たな目標検討のための
ビジョン策定（ミレニア・プログラム）」に採択されました

科学技術振興機構（JST）が公募した「ムーンショット型研究開発事業 新たな目標検討のためのビジョン策定（ミレニア・プログラム）」において、広島大学を中心とする「DIGITAL BIOSPHERE（デジタル生物圏）」未来共創チームの提案が採択されました。

【提案者】

「DIGITAL BIOSPHERE」未来共創チーム

（チームリーダー：西原禎文 広島大学 大学院先進理工系科学研究科 教授、

サブリーダー：奥原啓輔 プラチナバイオ株式会社 代表取締役 CEO）

【調査研究課題名】

宇宙に人類が進出するための「デジタル生物圏」構築に関する調査研究

【調査研究概要】

当チームは、すべての生物情報がデジタル化され、データで表現できる世界「DIGITAL BIOSPHERE」が実現するという 2050 年の社会像を描きます。

ゲノム編集、AI、ストレージなど、バイオ×デジタルの融合で生命現象の解明が進み、健康・医療、工業、エネルギー、農業のパラダイムシフト、さらには人類が宇宙に進出するためのイノベーションを実現する、ゲームチェンジング技術について調査研究を行います。

【核となる技術シーズ】

「DIGITAL BIOSPHERE」の実現には、膨大な遺伝子情報を保存・解析可能な革新的コンピューティング技術と多種多様な遺伝子情報の解析技術が必須となります。

今回チームリーダー（西原禎文）の開発した単分子でメモリ機能を発揮する超高密度メモリ材料と、サブリーダー（奥原啓輔）が代表取締役を務める広島大学発ベンチャー「プラチナバイオ社」のバイオ×デジタル技術を核として、「宇宙に人類が進出する」という壮大な夢の実現に取り組みます。

【ミレニア・プログラムについて】

内閣府が主導する「ムーンショット型研究開発制度」は、超高齢化社会や地球温暖化問題など重要な社会課題に対し、人々を魅了する野心的な目標（ムーンショット目標）を国が設定し、挑戦的な研究開発を推進するものです。

ミレニア・プログラムは、新型コロナウイルス感染症を受けた社会情勢の変化を踏まえ、新たなムーンショット目標の検討を進めるため、今後の時代を担う若手の柔軟かつ自由なアイデアを取り入れながら、「ポスト／アフターコロナ」を見据えた将来の社会経済のあるべき姿（ビジョン）を議論する、目標検討チームを JST が公募したものです。¹

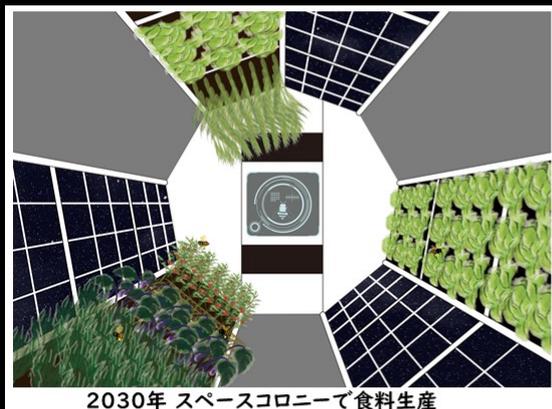
今回は 129 件の応募の内、21 件が採択されました。目標検討チームのアイデアのうち、数件をムーンショット目標候補とします。その後、目標候補の内容を踏まえて、総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）が最終的なムーンショット目標を決定します。²

¹ JST ムーンショット型研究開発事業 HP
<https://www.jst.go.jp/moonshot/koubo/202009/index.html>

² JST プレスリリース
<https://www.jst.go.jp/pr/info/info1481/index.html>

【参考資料】

(1) 2050年の社会像



ウイルスに対する早期ワクチン開発などにも応用できるため、人類の宝になる。

極限環境に耐え得る植物や微生物を創生するために、「DIGITAL BIOSPHERE (デジタル生物圏)」の構築を提案する。



(2) チームメンバー構成

チームリーダー



西原 禎文
広島大学大学院先進理工系
科学研究科 教授

サイエンスの視点から
実現可能性を調査

サブリーダー



奥原 啓輔
プラチナバイオ株式会社
共同創業者・代表取締役CEO

ビジネスの視点から
実現可能性を調査

チームメンバー①



ELSI (倫理的・法的・社会的課題)
の視点から調査

中空 萌
広島大学大学院人間社会
科学研究科 講師

チームメンバー②



グローバル
ビジネス
の視点から調査

日下部 裕美子
株式会社Impact Access
代表取締役CEO

チームメンバー③



バイオ
ビジネス
の視点から調査

Devang Thakor
Anioplex, LLC
President, California (US)

【お問い合わせ先】

大学院先進理工系科学研究科

教授 西原 禎文

Tel : 082-424-7418

E-mail : snishi@hiroshima-u.ac.jp